

瀋陽駐在員事務所



現在の瀋陽テレビ塔
(彩電塔)

「瀋陽スカイツリー!？」

瀋陽テレビ塔は、1989年に開業しました。高さは305.5mで、187~215.5mの間には、遼寧広播電視台（遼寧ラジオテレビ局）の送信設備と一般開放されている展望台があります。現在、瀋陽市内では、427mの瀋陽国際金融センター、330mの恒隆ツインタワー、327mの華府天地プラザなど、瀋陽テレビ塔を凌ぐ高層ビルの建設が進められています。当然、テレビやラジオの電波に影響がでるわけで、瀋陽市はテレビメディア文化産業圏を創設し、そこに高さ600m以上の新テレビ塔を建設すると発表しました。たぶん東京スカイツリーの634mを超える東洋一の高さを誇るテレビ塔を建設することになるでしょう。

現在のテレビ塔は取り壊され、跡地には商業施設が建設される予定です。瀋陽のシンボル「彩電塔（地元の愛称）」が、発展する瀋陽経済の渦に巻き込まれ、その姿を消してしまうのは、瀋陽人にとって心寂しいものがあります。これも時代の流れなのでしょうか・・・。

正司 毅

ユジノサハリンスク駐在員事務所

「日本映画祭」



1月28日から30日の3日間、ユジノ市内の映画館で日本総領事館主宰による日本映画祭が開催されました。日本語のセリフにロシア語の字幕を付けての公開です。字幕で映画を鑑賞する習慣がないロシア人にはあまりウケないのでは?とと思っていましたが、定員840名の映画館は3日ともほぼ満席で、観客の大部分は現地のロシア人でした。

上映された5本は少し古い映画ですがいずれも佳作であり、終了後には観客から拍手が起こっていました。初日の上映は「どら平太」という時代劇。悪徳商人たちと、彼等に癒着した藩の重役連中を型破りな主人公が一掃するストーリーですが、脚本が黒澤明ということもあり名作「用心棒」を彷彿させる面白い作品でした。昨今のロシア事情に重ね合わせた人々には、特にウケたように思います。上映後、私を日本人と認めた隣の席の若い娘に日本語で「アリガトウ」と言われました。私が企画した訳でもないのですが、とりあえず「いいんだよ」と返事しておきました。そこから先には進めませんでしたが、ロシア人には日本の製品だけではなく文化も好きな人が多いのだなと感心いたしました。他に上映された作品は「ブタがいた教室」「みんなの家」「シコふんじやった」「シングルガールズ」でした。

中川 文敏

(財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室

『福が逆さまの意味は?』



中国は旧暦の正月を祝います（春節）。今年は2月3日が旧暦の元旦にあたります。この時期になると中国の家庭やお店は、入り口近くが「赤色」で染まります。中国人は赤色が大好きで、また縁起が良い色とされています。そして目につくのは写真の通り「福」というのが逆さまになっているものです。これには‘粋’な意味合いがあります。中国語で逆さまにする事は『倒（dao ダオ）』という漢字であらわします。福を逆さまにする＝倒福。この『倒』の発音が、達する・届く・やって来るといった意味の『到（dao）』という漢字と同じ発音である事から、掛け言葉になっています。つまり、福が来る＝到福。おさらいします。福を逆さまにする＝倒福（dao fu）→福が来る＝到福（dao fu）。合点合点！

中島 康成